

GALLERY

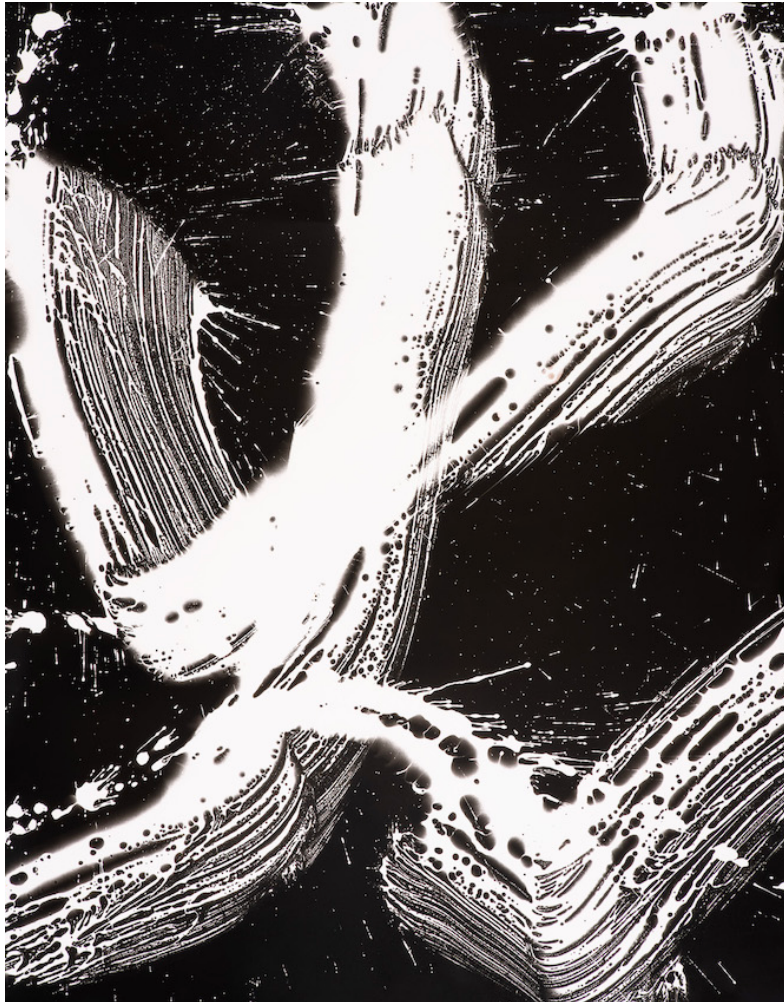
KOYANAGI

PRESS RELEASE

ギャラリー小柳 展覧会のご案内

杉本博司 火遊び **Playing with Fire**

2023.9.5 (Tue) – 10.27 (Fri)



Hiroshi Sugimoto, *Brush Impression 0884*, 2023

## Brush Impression

三年間に亘るコロナ禍の後、久しぶりにニューヨークのスタジオに戻った私は大量の印画紙が使用期限を過ぎていることに気がついた。写真プリントのための印画紙は生鮮食料品のように時間と共に劣化するのが。杉本作品のプリントは、そのグレイゾーンの微妙な濃淡の表現が決め手だ。しかし劣化した印画紙ではその表現は難しい。そこで私は考えをコペルニクス的に改めた。劣化を劣化として捉えずそれを美化として捉えるのだ。古美術品は時間に晒されて劣化の果てに美化される。印画紙の白は鶏卵紙のような味が付き、黒の色調には柔らかかみが加味されていた。そこで私は三年の休暇中に体得した「書」の技法を暗室に持ち込もうと考えたのだ。薄いオレンジ色に満たされた極端に薄暗い暗室の中に印画紙を置く、そして筆を現像液に浸す。薄闇の中に手探りで文字を書く、その姿は見えない。その後一瞬の閃光のように光を当てる。すると筆に触れた部分だけが文字となって黒く浮かんでくるのだ。

現像液による「書」がうまく機能することを実証した後、今度は筆を定着液に浸して実験を試してみた。強い酸の刺激臭にまみれながら揮毫すると、今度は漆黒の下地に白い文字が浮かび上がった。私は見えない文字に精神を集中させ、その文字の意味の発生現場に想いを馳せて書に臨んだ。

炎は不思議だ。変幻自在にその姿を変える。その姿を見つめていると別世界へと導かれるようだ。この惑星も、もともと太陽の炎から生まれたのだ。燃え盛る炎は誕生の秘蹟でもあり、燃え尽くす終焉の響きでもある。時に手を出し足を出して、燃え盛る炎の姿が「火」という字に転写されたのは見ての通りだ。

杉本博司

報道関係者各位

平素よりお世話になっております。

この度、ギャラリー小柳では2023年9月5日(火)から10月27日(金)の会期にて杉本博司の個展「杉本博司 火遊び Playing with Fire」を開催いたします。本展は、杉本が暗室の中で現像液や定着液に浸した筆を駆使して印画紙に書を揮った最新シリーズ「Brush Impression」から《火》を中心とした新作を初公開いたします。

子供の頃、火遊びをした。火はあぶないということはどういうことか知っていた。火遊びを見つかる  
と大人が騒ぐのでますます火遊びをした。周りにマッチ売りの少女がいて、悪ガキたちをそ  
のかし焚き付けた。

思春期の頃、火遊びをした。なにやらよくわからない説明のつかない衝動が突き上げてきて、  
なんでも自分に説明しようともかく私の理性は、木っ端微塵にだけ散った。

学生の頃、火遊びをした。学生運動のさなか、火炎瓶は若者の魂を煽った。機動隊がせまる、  
必死で逃げた。こんなに早く走れるとは思ってもみなかった。

中年になって、火遊びをした。しかしすぐに後悔し別の火遊びを思いついた。深夜、和蠟燭に  
火をつける。風もないのに爆(は)ぜる。木製暗箱で蠟燭の一生を撮った。儂い一生だった。

晩年になって、火遊びをした。残された時は火を見るより明らかだ。そこで火を見つめてみた。  
炎の姿は火という文字に私のなかで結晶していった。印画紙に定着液で火を描いた。写真とは  
因果な商売だ。意外と真は写るものだと今更ながら気がついた。

杉本博司

本シリーズは、三年におよぶコロナ禍の後にニューヨークのスタジオに戻った杉本が使用期限を迎えていた大量の印画紙を見つけたことから始まりました。本来なら劣化した印画紙は使用できませんが、古美術品が劣化の果てに美しくなっていくことに習い、杉本は劣化した印画紙を用いて作品を制作することになりました。「書」の技法を暗室に持ち込み、現像液や定着液に筆を浸し、手探りで印画紙に筆を揮いました。

今回の展覧会では《火》を中心に展覧いたします。杉本によるところの「誕生の秘蹟でもあり、燃え尽くす終焉の響きでもある」火と幼少期からさまざまな関わりを持ち、「In Praise of Shadows 陰翳礼賛」シリーズでは、蠟燭に灯した火が辿った時間の軌跡を一枚の写真に収めました。本作では、薄暗い暗室の中で「時に手を出し足を出して、燃え盛る」様子を映し出すように筆を使い分け筆跡に多様な質感を与えながら、まるで火遊びをするかのように《火》を無数に書き続けました。一定時間印画紙を光に晒すことで文字に淡い桃色や赤色を写し、さながら大火事にも見舞われたかのような色とりどりの《火》が展示空間を覆います。その傍には「炎」や「灰」が密かに紛れ込み、時に燃え上がり時に灰となって静まるさまざまな《火》の姿を物語っています。

杉本はこれまで、すでに「ある」ものに自身の解釈を加えて新しい表現へと発展させる試みを続けてきました。これを伝統的な和歌の手法になぞらえ、「本歌取り」と表現しています。今回の作品は、臨書を始まりとして「本歌取り」の解釈をさらに広げ、文字の起源について考察し、自然の形象である「炎」そのものを転写しました。杉本は試行錯誤の過程で、人類最古の文字の一つとされる「楔形文字」、古代エジプトで使用された象形文字が記された「死者の書」、大本教祖出口なおが神の言葉を書きつけた「お筆先」を参照しながら、表音文字の「あいうえお」に表意文字の漢字を当てはめて歌にした一連の作品を制作しています。

渋谷区立松濤美術館では、2023年9月16日（土）から11月12日（日）の会期にて個展「杉本博司 本歌取り 東下り」を開催致します。本展覧会では、書における本歌取りとして上記を含む一連の作品を展覧いたします。

ロンドンのハイワード・ギャラリーでは、2023年10月11日（水）から2024年1月7日（日）の会期にて大回顧展「Hiroshi Sugimoto: Time Machine」の開催を予定しております。

あわせてご高覧いただけますと幸いです。

資料および図版のご依頼は担当者までご連絡ください。

ご掲載の際にはご一報いただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

ギャラリー小柳

## 【広報用図版】

ご使用の際は、下記キャプションとクレジットラインを表記いただくようお願いいたします。  
下記ご承知おきの上ご使用くださいますようお願いいたします。

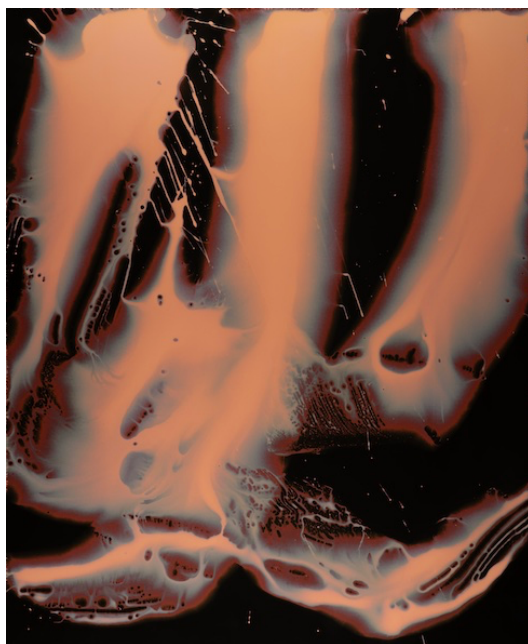
- ・図版のトリミング不可
- ・図版への文字載せ不可
- ・図版の二次使用禁止、ご使用後は速やかにデータを破棄してください。



## [キャプション]

杉本博司  
Brush Impression 0884  
2023 年  
ゼラチン・シルバー・プリント

Hiroshi Sugimoto  
*Brush Impression 0884*  
2023  
gelatin silver print



杉本博司  
Brush Impression 0827  
2023 年  
ゼラチン・シルバー・プリント

Hiroshi Sugimoto  
*Brush Impression 0827*  
2023  
gelatin silver print

## [クレジットライン]

© Hiroshi Sugimoto / Courtesy of Gallery Koyanagi

## 【展覧会概要】

展覧会名：杉本博司 火遊び Playing with Fire  
会期：2023年9月5日（火）－10月27日（金）

開廊時間：12:00－19:00  
休廊日：日／月／祝祭日

会場：ギャラリー小柳  
東京都中央区銀座 1-7-5 小柳ビル 9F  
Tel: 03-3561-1896 Fax: 03-3563-3236

アクセス：  
東京メトロ有楽町線 銀座一丁目駅 7 番出口より徒歩 1 分  
丸ノ内線・銀座線・日比谷線 銀座駅 A-9 出口より徒歩 5 分

お問い合わせ：ギャラリー小柳  
Tel: 03-3561-1896  
Mail: [mail@gallerykoyanagi.com](mailto:mail@gallerykoyanagi.com)  
<http://www.gallerykoyanagi.com>

## 杉本博司

1948年東京生まれ。1970年に渡米、1974年よりニューヨーク在住。活動分野は写真、建築、造園、彫刻、執筆、古美術蒐集、舞台芸術、書、作陶、料理と多岐にわたり、世界のアートシーンにおいて地位を確立してきた。杉本のアートは歴史と存在の一過性をテーマとし、そこには経験主義と形而上学の知見をもって西洋と東洋との狭間に観念の橋渡しをしようとする意図があり、時間の性質、人間の知覚、意識の起源、といったテーマを探求している。作品は、メトロポリタン美術館 (NY) やポンピドゥセンター (パリ) など世界有数の美術館に収蔵。代表作に『海景』、『劇場』、『建築』シリーズなど。

2008年に建築設計事務所「新素材研究所」を設立、MOA美術館改装 (2017)、清春芸術村ゲストハウス「和心」 (2019) などを手掛ける。2009年に公益財団法人小田原文化財団を設立。2017年10月には構想から20年の歳月をかけ建設された文化施設「小田原文化財団 江之浦測候所」をオープン。伝統芸能に対する造詣も深く、演出を手掛けた『杉本文楽 曾根崎心中』公演は海外でも高い評価を受ける。2019年秋には演出を手掛けた『At the Hawk's Well (鷹の井戸)』をパリ・オペラ座にて上演。主な著書に『苔のむすまで』、『現な像』、『アートの起源』、『空間感』、『趣味と芸術—謎の割烹味占郷』、『江之浦奇譚』、最新刊に『杉本博司自伝 影老日記』。1988年毎日芸術賞、2001年ハッセルブラッド国際写真賞、2009年高松宮殿下記念世界文化賞 (絵画部門) 受賞。2010年秋の紫綬褒章受章。2013年フランス芸術文化勲章オフィシエ受勲。2017年文化功労者。2023年日本芸術院会員に選出。

1948	東京生まれ
1970	立教大学経済学部卒業
1974	アートセンター・カレッジ・オブ・デザイン卒業
1974-	ニューヨーク在住

受賞歴

2023	日本芸術院会員 任命
2018	ナショナル・アーツ・クラブ 名誉勲章[写真]部門、ニューヨーク
2017	文化功労者 選出、東京 王立写真協会賞、ロンドン
2014	第1回イサム・ノグチ賞、ニューヨーク
2013	フランス芸術文化勲章オフィシエ章、パリ
2010	秋の紫綬褒章、東京
2009	高松宮殿下記念世界文化賞 [絵画] 部門、東京
2006	フォトエスパーニャ賞、マドリッド、スペイン
2001	国際写真賞、ハッセルブラッド基金、ヨーテボリ、スウェーデン
2000	名誉博士号、パーソンズ・スクール・オブ・デザイン、ニュースクール大学、ニューヨーク
1999	グレン・ディンプレックス賞、アイルランド近代美術館、ダブリン 第15回アニュアル・インフィニティ賞、国際写真センター、ニューヨーク
1988	毎日芸術賞、東京
1982	国立芸術基金 (NEF) 助成金、ワシントン D.C.
1980	ジョン・サイモン・グッゲンハイム記念財団奨学金、ニューヨーク
1977	C.A.P.S. 奨学金、ニューヨーク

主な個展

- 2023 「Hiroshi Sugimoto: Time Machine」ヘイワード・ギャラリー（ロンドン、イギリス）  
「杉本博司 本歌取り 東下り」渋谷区立松濤美術館（東京）  
「杉本博司 火遊び Playing with Fire」ギャラリー小柳（東京）
- 2022 特別展 春日若宮式年造替奉祝「杉本博司—春日神霊の御生 御蓋山そして江之浦」  
春日大社国宝殿（奈良）  
「杉本博司 本歌取り—日本文化の伝承と飛翔」姫路市立美術館（兵庫）  
「OPERA HOUSE」ギャラリー小柳（東京）  
「春日神霊の旅—杉本博司 常陸から大和へ」神奈川県立金沢文庫（神奈川）
- 2021 「OPTICKS」ギャラリー小柳（東京）
- 2020 「飄々表具—杉本博司の表具表現世界—」細見美術館（京都）  
「杉本博司 瑠璃の浄土」東山キューブ、京都市京セラ美術館（京都）  
「Past Presence」ギャラリー小柳（東京）
- 2018 「クアトロ・ラガッツィ 桃山の夢とまぼろし—杉本博司と天正少年使節が見たヨーロッパ」  
長崎県美術館（長崎）  
「SUGIMOTO VERSAILLES Surface of Revolution」トリアノン、ヴェルサイユ宮殿（フランス）  
「信長とクアトロ・ラガッツィ 桃山の夢と幻 + 杉本博司と天正少年使節が見たヨーロッパ」MOA美術館（静岡）  
「杉本博司：Still Life」ベルギー王立美術館（ブリュッセル、ベルギー）
- 2017 「杉本博司：天国の扉」ジャパン・ソサエティ（ニューヨーク）  
「LE NOTTI BIANCHE」サンドレット・レ・レバウデング財団現代美術館（トリノ、イタリア）
- 2016 「杉本博司 ロスト・ヒューマン」東京都写真美術館（東京）
- 2015 「趣味と芸術—味占郷」千葉市美術館（千葉）／細見美術館（京都/\*2016）  
「今昔三部作」千葉市美術館（千葉）／モスクワ・マルチメディア美術館（ロシア/\*2016）  
／Musée des Beaux-Arts, Le Locle（ヌーシャテル、スイス/\*2016）
- 2014 「ON THE BEACH」ギャラリー小柳（東京）  
「ロスト・ヒューマン・ジェネティック・アーカイブ」パレ・ド・トーキョー（パリ、フランス）  
「杉本博司：Past Tense」The J. Paul Getty Museum（ロサンゼルス、アメリカ）
- 2013 「杉本博司」サムスン美術館リウム（ソウル、韓国）
- 2012 「Five Elements」ギャラリー小柳（東京）  
「杉本博司 ハダカから被服へ」原美術館（東京）
- 2011 「杉本博司 アートの起源 | 建築」丸亀市猪熊弦一郎現代美術館（香川）
- 2009 「杉本博司—光の自然」IZU PHOTO MUSEUM（静岡）  
「放電場」ギャラリー小柳（東京）
- 2008 「歴史の歴史」金沢 21 世紀美術館（石川）／国立国際美術館（大阪/\*2009）
- 2007 「漏光」ギャラリー小柳（東京）  
「杉本博司」K20 ノルトライン=ヴェストファーレン州立美術館（デュッセルドルフ、ドイツ）  
／ノイエ・ナショナルギャラリー（ベルリン、ドイツ/\*2008）
- 2006 「本歌取り」ギャラリー小柳（東京）  
「観念の形 数理模型」アトリエ・ブランクーシ、ポンピドゥー・センター（パリ、フランス）
- 2005 「歴史の歴史」ジャパン・ソサエティ・ギャラリー（ニューヨーク、アメリカ）



- 「杉本博司：時間の終わり」森美術館（東京）／ハーシュホーン博物館と彫刻の庭  
（ワシントンD.C、アメリカ/\*2006）
- 2004 「大ガラスが与えられたとせよ」カルティエ現代美術財団（パリ、フランス）
- 2003 「杉本博司」サーペンタイン・ギャラリーズ（ロンドン、イギリス）  
「杉本博司：歴史の歴史」メゾンエルメス フォーラム（東京）  
「ARCHITECTURE」ギャラリー小柳（東京）  
「杉本博司：建築」シカゴ現代美術館（イリノイ州、アメリカ）
- 2001 「杉本博司：時の建築」ブレゲンツ美術館（オーストリア）  
「Portraits」ギャラリー小柳（東京）
- 2000 「杉本博司」ルフィーノ・タマヨ美術館（メキシコシティ、メキシコ）  
「杉本博司：建築シリーズ」サンフランシスコ近代美術館（カリフォルニア州、アメリカ）  
「杉本博司：ポートレート」ドイツ・グッゲンハイム美術館（ベルリン、ドイツ）／  
ビルバオ・グッゲンハイム美術館（ビルバオ、スペイン）
- 1999 「陰翳礼讃」ギャラリー小柳（東京）
- 1998 「モダニズム」ギャラリー小柳（東京）
- 1997 「Twice as Infinity」ギャラリー小柳（東京）
- 1996 「杉本博司：写真」ストックホルム近代美術館（スウェーデン）  
「Motion Picture」ギャラリー小柳（東京）
- 1995 「Still Life」ギャラリー小柳（東京）  
「杉本博司」メトロポリタン美術館（ニューヨーク、アメリカ）／ヒューストン・コンテン  
ポラリー・アート・美術館（ヒューストン、アメリカ/\*1996）／ハラ ミュージアム アー  
ク（群馬/\*1996）／アクロン美術館（オハイオ州、アメリカ/\*1997）  
「杉本博司：Time Exposed」クンストハレ・バーゼル（スイス）
- 1994 「杉本博司」ロサンゼルス現代美術館（カリフォルニア州、アメリカ）
- 1992 「杉本博司：Time Exposed」CAPC ボルドー現代美術館（フランス）
- 1991 「杉本博司：Time Exposed」佐賀町エキジビット・スペース／佐賀町 BIS、IBM 箱崎ビル  
前庭（東京）
- 1989 「近作展 6—杉本博司」国立国際美術館（大阪）
- 1988 「杉本博司」佐賀町エキジビット・スペース／ツァイト・フォト・サロン（東京）  
「杉本博司：ジオラマ、劇場、海景」ソナベンド・ギャラリー（ニューヨーク、アメリカ）
- 1977 「杉本博司」南画廊（東京）

#### 主なグループ展

- 2023 「ワールド・クラスルーム：現代アートの国語・算数・理科・社会」森美術館（東京）  
「シン・ジャパニーズ・ペインティング 革新の日本画—横山大観、杉山寧から現代の作家ま  
で」ポーラ美術館（神奈川）
- 2020 「STARS 展：現代美術のスターたち—日本から世界へ」森美術館（東京）
- 2017 「不在を作っているもの」ハーシュホーン美術館・彫刻庭園（ワシントンD.C、アメリカ）
- 2015 「シンプルなかたち展：美はどこからくるのか」森美術館（東京）
- 2014 「シンプルなかたち」ポンピドゥー・センター・メッス（フランス）
- 2012 「アジアの亡霊」サンフランシスコ・アジア美術館（カリフォルニア州、アメリカ）
- 2011 横浜トリエンナーレ 2011（神奈川）
- 2010 第17回シドニービエンナーレ（オーストラリア）

- 「セクシュアリティと超越」ピンチェック・アートセンター（キエフ、ウクライナ）
- 2009 「マッピング・ザ・スタジオ」プンタ・デラ・ドガーナ（ベネチア、イタリア）
- 「第三の心：アメリカ人アーティストが見つめたアジア、1860-1989」ソロモン・R・グッゲンハイム美術館（ニューヨーク、アメリカ）
- 2008 「リアリティチェック：現代写真における真実と幻想」メトロポリタン美術館（ニューヨーク、アメリカ）
- 「写真についての写真：メディアムに写り込むもの 1960年より」メトロポリタン美術館（ニューヨーク、アメリカ）
- 2004 「単数形（時々反復）：1951年から現在までのアート」グッゲンハイム美術館（ニューヨーク、アメリカ）
- 2003 「ハピネス：アートにみる幸福への鍵」森美術館（東京）
- 「日本写真の歴史」ヒューストン美術館（テキサス州、アメリカ）／クリーヴランド美術館（オハイオ州、アメリカ）
- 2002 「ムーヴィング・ピクチャーズ」ソロモン・R・グッゲンハイム美術館（ニューヨーク、アメリカ）
- 2001 横浜トリエンナーレ 2001（神奈川）
- 2000 「ゲンダイ：日本現代美術—身体と空間の間」ウジャドゥスキー城現代美術センター（ワルシャワ、ポーランド）
- 「拡張する地平線 ホイットニー美術館収蔵品に見る風景写真」ホイットニー美術館フィリップモリス分館（ニューヨーク、アメリカ）
- 1999 「美に関して：20世紀末の視点」ハーシュホーン美術館・彫刻庭園（ワシントンD.C.、アメリカ）
- 第3回アジア・パシフィック・トリエンナーレ（ブリスベン、オーストラリア）
- 「ミュージズとしての美術館」ニューヨーク近代美術館（ニューヨーク、アメリカ）
- 1998 「今世紀の終わりに：建築の100年」東京都現代美術館（東京）／ロサンゼルス現代美術館（カルフォルニア州、アメリカ）
- 1997 「In Visible Light：芸術、科学および日常における写真と分類」オックスフォード近代美術館（イギリス）
- 1996 第10回シドニービエンナーレ（オーストラリア）
- 「プロスペクト 96：現代美術における写真」フランクフルト・クンストフェライン、シルン・クンストフェライン（ドイツ）
- 「夜に」カルティエ現代美術財団（パリ、フランス）
- 1995 「アルバム：ボイマンズ=ファン・ベーニンゲン美術館写真コレクション」ボイマンズ=ファン・ベーニンゲン美術館（ロッテルダム、オランダ）
- 「日本の現代美術 1985—1995」東京都現代美術館（東京）
- 1994 「空間・時間・記憶：Photography and Beyond in Japan」原美術館（東京）
- 「戦後日本の前衛美術展：空へ叫び」横浜美術館（神奈川）／グッゲンハイム美術館 ソーホー（ニューヨーク、アメリカ/\*1995）／サンフランシスコ近代美術館（サンフランシスコ、アメリカ/\*1995）
- 1993 「21世紀：パラケルススと未来に向って」クンストハレ・バーゼル（スイス）
- 1992 「隠されたリフレクション」イスラエル博物館（エルサレム、イスラエル）
- 1991 「カーネギー・インターナショナル 1991」カーネギー美術館（ペンシルバニア州、アメリカ）
- 「キャビネット・オブ・サイنز：ポストモダン日本の現代美術」テート・ギャラリー・リ

GALLERY KOYANAGI

- バプール (イギリス)
- 1990 「80年代の日本美術」 フランクフルト・クンストフェライン (ドイツ)  
「写真の過去と現在」 東京国立近代美術館 (東京)
- 1987 アメリカにおける日本現代美術 (I): アリタ、ナカガワ、スギモト」 ジャパン・ソサエティ  
ー・ギャラリー (ニューヨーク、アメリカ)
- 1978 「新蔵作品展」 ニューヨーク近代美術館 (アメリカ)

\*巡回展の開催年